

奈良女子大学：教育GPサイエンスオープンラボ

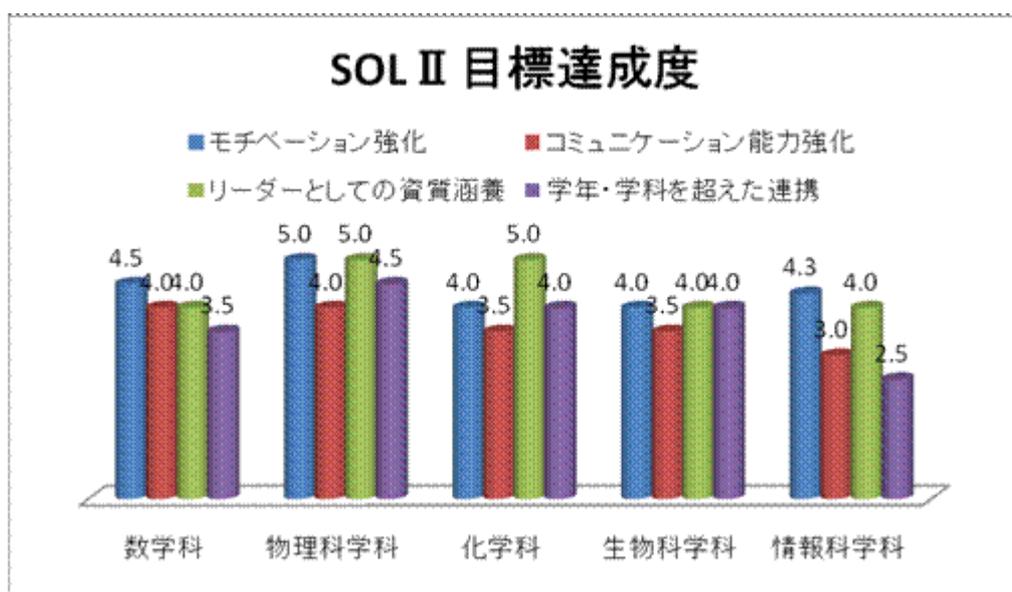
活動の評価（平成 21 年度）

1. 受講者の声

- ・ スタンプラリーを開催したおかげで、受講者が時間を持て余すことがなかった。
- ・ 来場者に対して教室がせまい
- ・ 先生や上級生、下級生に密に関わることでできるのは SOL の一番の特徴
- ・ どうすればわかりやすく伝えることができるのか考え、自分の知らないことを発見し、調べて理解し、説明することができた。
- ・ 大変なことも多かったが、主体的に活動することの大切さを学べた
- ・ 学科や担当教員との間で SOL に対する取り組み態度（熱意）に差がありすぎる
- ・ 時間を取られすぎて研究時間をかなり削られたので意欲が下がりました。
- ・ お手伝いという感じが拭えず、自主的な活動ということは実感できなかった
- ・ 受講生が少ないため、各自の負担が重すぎる。
- ・ 学問的な充実感が得られにくい

2. 教員による評価（5段階評価）

3つの観点（モチベーション強化、コミュニケーション能力の向上、リーダーとしての資質涵養）+1（学年・学科を超えた連携）で評価が行われた。平成 21 年度は「モチベーション強化」について高く評価されなかった。これは受講生が少ないために負担が重すぎたり、学問的な充実感が得られにくかったことがほかに比べ評価が低い原因と考えられる。一方で、学年・学科を超えた連携に対する評価は高かった。そのほかにも、おおむね、高い評価であった。



奈良女子大学：教育GPサイエンスオープンラボ

活動の評価（平成21年度）

3. 外部評価委員による評価

前年度の反省を受け、今年度より外部評価委員による評価を受けることになった。

外部評価委員は以下の6名。（順不同、敬称略）

名 前	所 属
毛利 康人	奈良市教育委員会・指導主事
木村 邦夫	地球環境産業技術研究機構 参与
星屋 泰二	日本原子力研究開発機構・関西光科学研究所 技術主幹
萩原 吾郎	大和郡山市立片桐西小学校 教諭（グループG代表）
長濱 聖	ケニス株式会社 大阪本社企画部企画主任
鍛冶 幹夫	奈良女子大学 社会連携センター長

全体としてのSOLの取り組みは教育、地域貢献、科学普及における効果の面から非常に高い評価を得られており、緊急に大幅な見直しを要する点はないと判断された。

また、以下のような意見が挙がっている。

- ・ 学生の負担が非常に大きいと感じた。テーマを減らして負担を軽減してはどうか
- ・ 時間不足に対しては、あらかじめSOLの活動時間を講義時間割に含めてはどうか
- ・ 教育活動のほか、科学普及活動として、参加者にどのような影響があるのか調べる観点があってもよい。（現実には困難）
- ・ 学生のモチベーション強化に対して、受講のメリットを具体的に示したり、相対的にどれだけスキルが向上したかを評価してはどうか。
- ・ 学生に感謝状を出すなど、エンカレッジも必要
- ・ 安全面に関しては、学科レベルで承認の上、実施していたようだが、来場者に不安を与えるかもしれないので、安全対策を一層徹底すべき。

4. 来年度への課題

- ・ 広い会場の確保（→日程の変更）
- ・ 受講生の確保（→他学科の受講を認める、など制度変更）
- ・ SOL-I、SOL-IIの区別について（→統一的に運用し各学科レベルでも学年間の連携を強化する。教員が積極的に指導・助言をする）
- ・ GP終了後の持続的な継続（→今後も議論していく）